

教本「取調べ（基礎編）」の概要

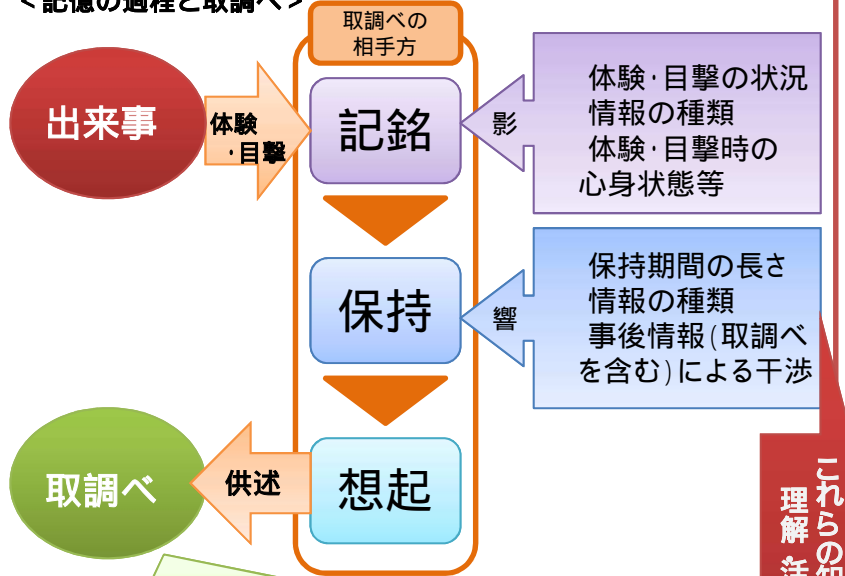
コンセプト

取調べの相手方から正確な情報を可能な限り多く入手するとともに、虚偽供述を防ぐための基本的手法

構成

第1章 取調べと関連する心理学の知見

<記憶の過程と取調べ>



取調べ

供述

想起

想起への集中を高める手法
挨拶や取調べの目的・進行等の説明など

記憶を喚起させるための手法
状況の心的再現、全ての報告、逆向再生、細部記憶の補助

虚偽自白の原因

- 自発型虚偽自白 ……より重い罪が明らかになることを防ぐためなどが原因
- 強制・追従型虚偽自白 ……当面の利益が、将来の問題より重要であると判断してしまうことが原因
- 強制・内面化型虚偽自白 ……犯行時間に自分がしていたことの記憶がないなどが原因

第2章 心理学の知見を踏まえた取調べの基本的手法

<取調べの流れ>

準備段階

計画・準備(情報の整理、手持ち証拠の分析等)
心構え(傾聴姿勢、仮説・持論に固執しない)

導入段階

挨拶と初期の会話
取調べの流れ・
刑事手続等の説明
(「想起への集中を高めるための手法」の活用)

ラポール(注)の形成

聴取段階

話し手の立場の委譲

質問方法の工夫(相手方の自由供述から焦点化)
想起を促進(「記憶を喚起させるための手法」の活用)
積極的な聴取姿勢(促し、要約、聞き直し)

自由供述

確認段階

取調べ計画との比較
→ 更に詳細聴取が必要な事項
→ 手持ちの証拠等と矛盾する事項
→ 捜査上、必要と考えられる事項

確認

注) 取調べの相手方が想起に集中することができ、かつ、思い出したことなど何でも話せる関係を意味する心理学上の用語。